

令和4年度がスタートしました。今年度は2コース6フィールドによる新たな教育体制に加え、夏の校舎移転と、将来を見据えた新生龍谷構築の大きな節目の年となります。

その過程を出来る限りリアルタイムに伝えられるよう、校長室からも日頃の「雑感」を簡単に綴ってまいります。ご覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.15

R4. 5. 2 「Cherry Blossoms」



この校舎での教育活動も残り3ヵ月ほどと考えると、とても名残惜しい思いにかられます。放課後、ふと学校前の公園から校舎を眺めると、咲き誇る桜の向こうに部活動の生徒がランニングしている姿が見えました。自然と校舎と生徒が一体となり、とても印象的な光景でした。

在校生には、OB・OGの皆さんが彩ってきたこの校舎での幾多の伝統を肌で感じながら、移転までの一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

One for all, All for one. No.16

R4. 5. 2 「快進撃！」

本校剣道部が旭川剣道連盟70周年記念第40回旭川地区少年剣道大会で見事「団体優勝」を果たしました。殆どのタイトルを手にしてきた剣道部ですが、この大会だけはこれまで優勝経験がありません。それだけに、この大会にかける選手の思いは並大抵ではなかったことと思います。

優勝チームの林君、福田君、幸田君、信田君、窪田君とお話する機会をいただきました。

「優勝はしても、多くの改善点が見つかった大会。今後の練習につなげていきたい。」「自分のミスを周りが支えてくれた。次の大会では自分が支えられるよう頑張りたい。」「まだ手にしたことのない大会での優勝は嬉しいが、今はまだ通過点。」「コロナ禍の中、大会に参加出来たこと自体が有り難いし、周囲の方々にも感謝したい。」など、彼らの言葉には優勝したことへの驕り高ぶりは微塵も感じられません。むしろ、謙虚に、素直に、そして常に向上心を忘れない本当にすがすがしい面々でした。



「それぞれが自分の言動に責任を持ち、互いに信頼し合える最高の仲間です。」と語ってくれた主将幸田君の言葉に、真の覇者としての風格と頼もしさを感じました。

One for all, All for one. No.17

R4. 5. 9~13 「交通安全意識の啓発！」

春の交通安全週間に呼応し、各クラスの議長・副議長・書記の皆さんが、朝の8時から校舎前の4条通りで「スピードダウン」・「シートベルトの着用」を呼びかけました。



本校では、こうした活動を通して、高校生自らも自転車の並列走行や二人乗り、スマホを操作しながらの運転等をやめ、安心・安全な登下校に努めることを再認識してもらうように努めています。

道路交通環境の改善に向けた取組の推進とともに、生徒自身の交通ルール遵守や正しい交通マナーの習慣化が、少しでも交通事故防止の意識啓発につながってほしいと願っています。

最近では、自転車に乗っていて歩行者に怪我を負わせる事故も報道でよく耳にします。被害者にならないことはもちろん、加害者にならないためにも、交通安全には留意してください。



One for all, All for one. No.18

R4. 5.11 「宗祖降誕会」

宗祖降誕会は、浄土真宗の開祖親鸞聖人のご誕生をお祝いする法要です。今回はコロナ感染防止対策のため放送により実施しました。

ご法話では、宗教教育部長の藤島教諭から、「念仏者の生き方」を体したご教示「私たちのちかい」についてお話しがありました。

私たちのちかい

- 一、自分の殻に閉じこもることなく 穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように
- 一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にすることなく 人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき 日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

「私たちのちかい」は、これから生きる多くの方々に親しみ、理解していただきたいと、浄土真宗本願寺派の門主様が四か条にまとめられたものです。捉え方は様々かもしれませんが、人としての生き方・在り方を考える糸口になればと思っています。

One for all, All for one. No.19

R4. 5.11 「生徒総会」

生徒会総務部の皆さんが中心となり、生徒会活動について話し合う生徒総会が放送にて行われました。議題は「令和3年度事業報告及び決算、令和4年度事業計画（案）及び予算（案）、eスポーツ同好会の部への昇格、生徒会総務部の任期改定、いじめ根絶宣言」と重要な案件ばかりでしたが、総務部の皆さんの丁寧な説明により、すべての案件が全クラスに承認されました。



特に「総務部の任期改定」は生徒会行事の実効性を考えた大改革とも言え、生徒会活動の重要性を考える総務部の皆さんの熱い思いを感じました。

また「いじめ根絶宣言」では、宣言内容の立案から放送を通しての呼びかけ方法まで、総務部の皆さんが推敲を重ね完成まで尽力してくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

より良い学校づくりに関わろうとする前向きな姿勢に敬意を表するとともに、改めて生徒の皆さんの大きな力に感動しています。

One for all, All for one. No.20

R4. 5.11 「壮行会」

いよいよ高体連支部予選会が始まります。例年は関係選手が体育館壇上で決意表明をするのですが、今年度は感染拡大防止を鑑み放送で行われました。

男子バスケットボール部主将の村田 海莉君が出場選手を代表し、「これまで、コロナ渦で十分な練習や試合が出来ませんでした。この悔しい気持ちをバネに、全校生徒の皆さんの応援をしっかりと胸に秘め、最後まで諦めずに正々堂々と戦ってきます。」と力強く決意表明をしてくれました。

結びに、安藤教頭先生と小川生徒会長から温かな激励の言葉が贈られ壮行会を終了しました。放送での壮行会でしたが、龍谷生としての固い絆を確認し合うことができました。



One for all, All for one. No.21

R4. 5.12 「合同企業説明会」

あさひかわ合同企業説明会実行委員会主催の説明会がアートホテルで開催されました。多種多様な企業約35社がブースを構える大イベントです。本校からも就職希望者を中心に36名の生徒が説明会に参加してきました。事前に興味・関心のある2社を選び、会社概要や求める社員像、就職試験に合格するための秘訣などを学ぶことができました。

3年生の就職希望者にとっては採用試験まであとわずかしかありません。一日一日のこうした主体的体験活動の積み重ねが最終的に合否を分けることになります。

終了後、引率教諭から「生徒の態度が素晴らしく、真摯に向き合う姿に明るい希望が持てました。」と嬉しい報告をいただきました。

こうした外での貴重な体験は、学校とはまた異なる成長を促します。今後も各学年に適した進路関係の取組を実践していきます。



One for all, All for one. No.22

R4. 5.12 「火樹銀花」

職員室に向かう掲示黒板に、なにやら美しい響きの四字熟語の書が掲示してあります。

豊かな墨量、張りのある点画、見事な筆さばき、毎朝必ずと言っていいほど立ち止まって見入ってしまうほど魅力あふれる書です。

この書を書いたのは2年生の元山 唯さん。お昼休みに、生徒会担当の二木先生とともに校長室でお話を伺うことができました。



「火樹銀花 (かじゅぎんか)」とは「町の灯り、花火の光が輝く様子、夜景」といった美しい光景を表す言葉だそうです。この言葉は、生徒会通信の題名にもなっており、「外見だけでなく内面的にも美しい学校でありたい」という生徒会の皆さんの願いが込められているのでしょう。

元山さんは書道4段の持ち主。生徒会で忙しい日々を送りながらも、書道部でも活躍し、将来は医療系の仕事に進みたいという進路希望も持つなど、まさに高い次元の文武両道を貫いています。今後のさらなる活躍が本当に楽しみです。

One for all, All for one. No.23

R4. 5.18 「進路講話」

6校時にライセンスアカデミーのご協力を得て、1年生対象の「進路講話」を実施しました。

「先月入学したばかりなのに、もうはや進路講話！」と思われるかもしれませんが、実は、この時期に進路を真剣に考える生徒と考えない生徒では、卒業時に大きな差が出ます。

逆の発想で言えば、長い自分の人生を決めるまで「たったの3年間しかない」ということになります。

さらに、進路は高校時代の様々な体験によって変化していきます。進路を考えた上での主体的体験にしか大きな成長はありません。

本日は、①進路選びについて、②学校生活の過ごし方、③定期試験の臨み方の三点について、日々の具体的取組をわかりやすくご説明いただきました。1年生の皆さんには早速今日から実践して欲しいと願っています。

